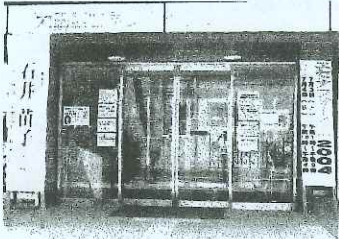




INFORMATION エセナおおた 第9号

平成 16年 7月 15日

発行:大田区立男女平等推進センター区民自主運営委員会



2004エセナフォーラム

7月3日(土)
13:00~
21:00

7月3日~4日、2004エセナフォーラムを開催しました。参加団体によるワークショップ、展示、講演会、映画会とにぎわいました。



石井苗子さんを迎えて
「自由な自分で生きる」



れい子さんと一緒にキルトを作るキルトであそぼ



産むだけが女の役割ですか? 年をとるのは素晴らしい!!



DVを考えよう!!

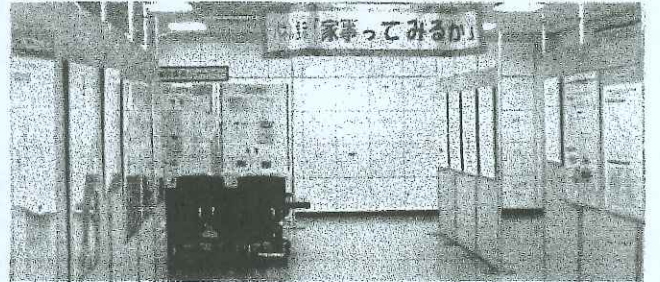


自分らしく輝くために☆自分を大切にできる☆心の護身術



結婚、出産、子育て、介護、どれもあきらめず、技術を持って働き続けて

「女人禁制から女性の
職域拡大へ」展



「家事ってみるか」パネル展



特定非営利活動法人男女共同参画おおたと 区民自主運営委員会コーナー



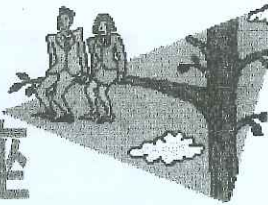
ちょっと一休み

エセナフェスタ参加団体 大募集! 10月3日(日)

~Let's Refresh!~

女性のための心の栄養補給講座

5月7日~28日まで行われた「女性のための心の栄養補給講座」は、講師に萩原なつ子さん(武蔵工業大学助教授)をお迎えしました。放映中のテレビドラマ「アットホームダッド」や童謡「ぞうさん」など身近な話題を題材にジェンダーについて学び、替え歌を楽しみました。



おとぎ話がつたえてきたもの

「政治的に正しいおとぎ話」(DHC刊)という本があります。70~80年代にかけて、アメリカでは女性差別的な言葉を中立的な表現に変える運動が広がりました。MAN(マン)は男と人間を意味し、男=人間です。WOMAN(女性)はマンにWOがついて人間ではありません。そのため、パーソンという言葉を使い、チェアマンはチェアパーソン、ファイアマンはファイアパーソンに変わりました。女性の呼び方も既婚(ミセス)と独身(ミス)を区別していましたが、現在は新しい呼称としてミズが公式文書にも使われています。

「政治的に正しいおとぎ話」は赤ずきん、白雪姫、シンデレラなどの名作童話を政治的に中立な言葉を使って書き直した本です。おとぎ話は時代によって社会によって変わります。桃太郎では、川で洗濯するのはおばあさん、山で芝刈りするのはおじいさんです。毎日、聞いているうちに、子どもは知らず知らずに山の仕事は男、川で洗濯するのは女と、性別役割分業を刷り込まれていきます。そのことに気づいた人たちがおとぎ話をジェンダーの視点で読み解き始めました。

シンデレラは玉のこしに乗る依存装置としての結婚の物語です。素敵な王子様を待っている「待ち」の人生で、女性の自立という視点はありません。「政治的に正しいおとぎ話」を読むと、いかに無意識に差別的な言葉を内面化していたかを思い知らされます。



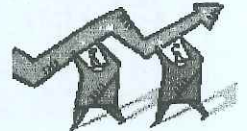
ぞうさんの歌がめざす社会

「♪ぞうさん、ぞうさん、お鼻がながいのね～」と歌う「ぞうさん」は、ジェンダーを考える上で非常に大切な歌です。作詞したまどみちおさんは、ぞうさんの鼻が長いことで「お前は違う」と、他の動物からいじめられている歌と言っています。ところが、ぞうさんは「そうだよ、ぼくは母さんと一緒に鼻が長い」と誇りを持って、「違ってどこが悪いの」と開き直っています。

まどみちおさんがこの歌で伝えたかったのは、「違いを違いとして認め合って理解しあう」ことでした。「違いを超えて認め合う」ではありません。違いを超えるとは超えた先に、ある種の理想像をつくり、そのイメージを共通認識として理解しあうというもので、それぞれの違いは否定されています。

しかし、女である、男であるという存在そのものは変えられません。私たちはまず一人一人が個です。それぞれが持って生まれたものが個性です。だれもが自分に誇りを持ち、それぞれの持っている能力を認め、どうやって一緒に生きていけるかを考え、違いを排除するのではなく、尊重しあう社会を

つくっていくというのが「ぞうさん」の歌です。女に生まれてよかった、男に生まれてよかった、真ん中に生まれてよかった、と思えるように、機会や可能性を奪わないような社会をつくっていかねばいけません。



違いを差別にしないこと

大事なことは違いを差別にしないことです。差別のスタートは排除です。区別と差別は違います。区別を排除にすると差別になります。これまで社会的にも政治的にも、女性が排除されてきた歴史があります。

明治時代、女性は人として扱われませんでした。準禁治産者として財産権もなければ、政治に参加する権利もありませんでした。女性が参政権を得たのは1946年4月です。市民参加のもっとも重要なものが選挙権です。国の物事を決定する人を選ぶ、町の物事を決定する人を選ぶ、自分の代表としてどのような議員を選ぶかは私たちの責任です。議会の中に女性の議員がいないのは女性の代弁者がいないことです。男性だけで物事を決めているのは変ではないでしょうか。

女性の存在意義、価値が無視されてきたため、女性のやっている家事労働は価値がないとされてきました。経済企画庁が無償労働の経済的評価を計算したら、夫婦に子ども二人の家庭で月30万円を超えました。しかし、いくら数値計算されても誰も払ってはくれません。夫の給料の中にも入っていません。日本は夫婦別財産制です。夫の給料は夫個人のもので、内助の功というものはどこにも入っていません。



ひとりの人として自立する

女性の経済的自立を考えると、女性に対する賃金や求人が少ない実態があります。男女雇用機会均等法では、機会を与えられていますが結果のところでは排除されています。日本は女性が経済的に自立したくても社会や会社、慣習が許さない状況にあります。

一方、男性の自立を考えると、「男子、厨房に入らず」という言葉もあり、生活者としての自立の機会を奪われてきました。一人の人間として生きていくためには、料理・洗濯などいわゆる家事労働をしていく必要があります。生活者としての自立は男・女に関係なく、ひとりの人間として重要です。

地域を考えると、女性はフルタイムの地域住民としてネットワークをつくっています。男性は地域にいないために、どこで何がどのようにして起こっているのかわかりません。地域社会の中で自立していない、生活者としても自立していない男

性が一人前の人として自立していると言えるでしょうか。

男女雇用機会均等法ができた背景には労働時間短縮があります。男も女も社会的・経済的に自立していくには、労働時間を短縮して働き方を変え、個人の自己実現のための趣味や子どもとのふれあいの時間をつくり、地域社会の中で活躍する時間もできるようにすることをめざしました。ところが、現実には違いました。経済が不況になって労働時間が短縮されていますが、サービス残業が圧倒的に増えています。男女雇用機会均等法の理念にもう一度立ち戻る必要があります。スウェーデンでは経済的・社会的・生活的・精神的な自立がバランスよく一人の人間の中にあつて、なおかつひとりでも生きていけるけれども、ふたりでいた方がなお楽しいから結婚するという考え方をします。

日本の民法には夫婦がお互いに助け合つてと書いてあります。相互扶助として、扶養義務があります。スウェーデンでは1987年に家族法を改正し、扶養義務を撤廃しました。廃止するために、男女の賃金格差を少なくし、女性の働く場を確保しました。制度的にも結婚していようがしていまいが、子どもを産もうが産むまいが、個人の生き方に対し法律は中立という中立性の指針をもっています。

日本国憲法は男女平等になっていますが、民法には男女不平等がかなりあります。戸籍は明治民法の家制度のなごりで、家を単位にしていますので、いろいろ問題ができています。法律は私たちに非常に近い問題です。意識的に遠いと思つているかもしれませんが、身近なことを規定しています。法律が意識を決定しているところもあり、慣習が法律をつくつていることもあります。

男女共同参画社会基本法が求めているものは男性も女性も経済的に自立し、家庭も社会のこともやっていくことを提唱しています。お互いがそれぞれの能力と個性を發揮できるような社会をつくることです。

専業主婦の代わりに夫が役割を交換すればいいという話

ではありません。専業主婦が本来の女の姿だと言われることに対してはノー、男の人が外で働くのが本来の姿だと言われることに対してもノーということです。しかし、自分たちの判断で夫婦のあり方を選ぶことは自由です。法律や慣習がそのことを排除しないようにすることが重要です。どのような生き方をするにしても、大丈夫なようにしておかなければいけません。専業主婦や専業主夫を批判するものではありません。その人たちがホントは働きたいのに働けない、ホントは家にいたいのにいられないというのはおかしい、家事や育児がシリアラになってしまう社会もおかしいということです。



町づくりにジェンダーの視点を

保育は個人的なものではなく社会全体でみていくものとして、保育所の設備を充実させたのはデンマークやスウェーデンです。日本でもみんなでみていた時代がありました。そういうコミュニティのあり方が見直されてきて、新しいコミュニティを作つていこうという発想もでてきました。

今日、プランターの葉っぱに虫がついていないかを見ながら、ゆっくり歩いている女性に出会いました。同じようにゆっくり歩いてみると、歩道のポールの上に象と馬を発見しました。丁度、子どもの目線にあります。大人の目線と子どもの目線は違います。子どもと歩いていると見えるものが違います。目線は町づくりでは大切です。

町づくりにジェンダーの視点が不可欠です。市民参加として男性と女性がバランスよく入り、いろいろな世代の人、いろいろな身長の人、いろいろな身体的個性を持った人が入っていなければなりません。高齢者、子ども、病人、障がい者についてもすべてジェンダーが関わっています。個というものを大事にしていくなかで、さまざまな人たちがいい関係をつくり、地域や社会がなりたっていく。その基本となるのが男女共同参画社会基本法です。地域との関わり、夫との関係を見直していただければいいと思います。(まとめ 田中きょうこ)



女性のための再就職準備セミナー 2004年7月30日(金)~9月3日(金)

8月13日(金)を除く毎週火曜、金曜午前9時半~12時

再就職をめざす上での心構えと仕事に不可欠なPC操作を身につける講座です。

☆参加費:7000円(テキスト代含む)

☆対象者:全回出席できる女性25名
(応募者多数の場合は抽選)

- 申込方法:往復はがき(詳細は問合せを)
- 応募締切り:平成16年7月21日(水)必着
- ★ 保育:1歳以上未就学児10名まで。保育料5,000円(全回分)

●主催・問合せ先●

区民自主運営委員会

電話:03-3766-6587 FAX:03-5764-0604

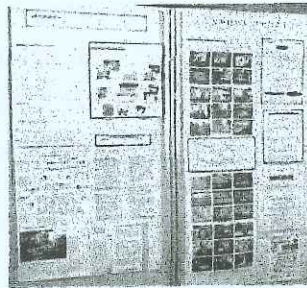
7月30日(金)	自分自身と社会を見つめ直す	エセナおおた
8月3日(火)	再チャレンジへの目標づくり	
8月6日(金)	Windows XPの基本操作	蓮沼中学校 コンピュータ室
8月10日(火)	Wordによるビジネス文書の作り方基本1	
8月17日(火)	Wordによるビジネス文書の作り方基本2	
8月20日(金)	Excelによる帳簿、集計表の作り方	
8月24日(火)	Excelによる関数の使い方とグラフの作り方	
8月27日(金)	Excelによるデータベースの基本	
8月31日(火)	パソコンの管理について	
9月3日(金)	目標に向かって動ける自分づくり	エセナおおた

2004エセナフォーラム

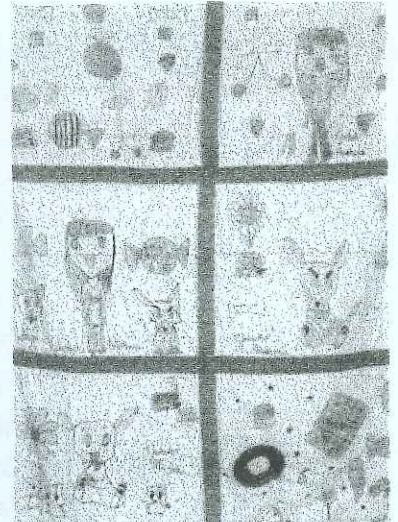
7月4日(日)
10:00~
16:00

男女雇用機会均等法
自覚・意識
大転換

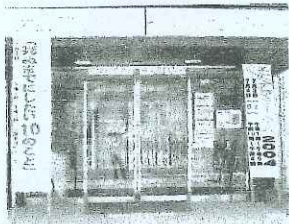
クイズラリー



「男女平等生活の実現 終のすみか/仲間との共同生活の例」展



キルト展



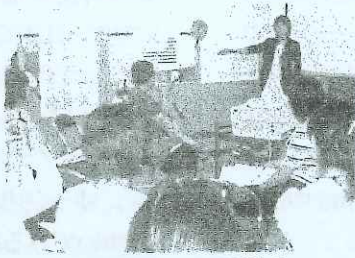
映画
「死ぬまでにしたい10のこと」が
終わって



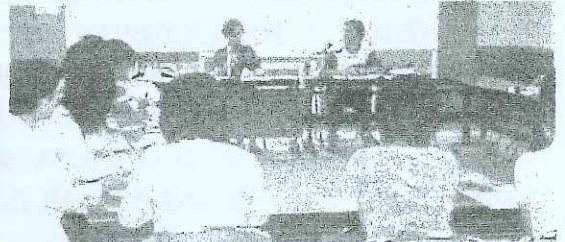
職場での・家庭での男女平等
15年にわたる男女差別是正裁
判を通して男女平等を考える



身近なパートナーシップについて



韓国ドラマにみる男と女



次世代育成支援計画を考える



カフェおひさま オープン

エセナおおたに小さなホットスペース
「カフェおひさま」がオープンしました。
どうぞ、お立ち寄りください。

開店時間 月・火・木 11:30~17:00

コーヒー、ハーブティー 150円

アイスコーヒー 200円

ピザトースト 180円 トースト 150円



区民企画講座募集

男女共同参画社会の実現を目的とした
区民による講座の企画を募集していま
す。10万円を限度とし、講座開催に必要
と認められた金額を助成します。

申込締切:2004年8月31日(火)必着
詳細は区民自主運営委員会へ

tel:03-3766-6587 fax:03-5764-0604

e-mail:esenaota@yahoo.co.jp

★第8号に掲載しました「人間の性別4つのレベル」に間違いがありましたので、訂正します。

ジェンダー・アイデンティティ(gender identity)は性自認であり、自分の性をどのように認識しているかということ。セクシュアル・オリエンテーション(sexual orientation)は性的指向であり、性欲や恋愛の対象の方向を表します。

☆☆☆☆☆☆

1階受付カウンターに『投書箱』を設置しました。

みなさまからたくさんのご意見、ご感想をお待ちしています!

大田区立男女平等推進センター エセナおおた
区民自主運営委員会

〒143-0016

東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587

03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

